

(6) 北 陸



北陸地域では、景気は持ち直しの動きが緩やかになっている。

- ・ 鉱工業生産は緩やかに減少している。
- ・ 個人消費はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 雇用情勢は持ち直しの動きが緩やかになっており、依然として厳しい。

前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 15 年 2 月)	今回 (平成 15 年 5 月)	
景況判断	持ち直しの動きが続いている	持ち直しの動きが緩やかになっている	
鉱工業生産	増加	緩やかに減少	
住宅建設	緩やかに減少	おおむね横ばい	
雇用情勢	依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きが続いている	持ち直しの動きが緩やかになっており、依然として厳しい	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は緩やかに減少している。

金属製品は、アルミ建材において首都圏向けで底固く推移していたビル用、リフォーム案件への取組強化等で増加していた主力の住宅用ともこのところ一服感がみられる。繊維は、衣料用外需で主力の中国向けが弱含み、西アジア向けも減少しており、内需でも、低価格輸入品との競合等により引き続き減少している。電気機械では、携帯電話向け、DVD関連機器向け及び自動車向け等の半導体集積回路が堅調に推移するなど、全体でも高水準横ばいとなっている。一般機械は、自動車関連メーカー向けのプレス機械や工作機械が堅調に推移しているほか、繊維機械では中国向けが好調を維持している。化学は、医薬品がOEM(相手先商標生産)等の増加から引き続き増加している。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期比増減率) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		10~12 月期	1~3 月期	1~3 月期	1~3 月期
金属製品	15.6	4.9	0.7	-	-
繊維	15.3	0.5	2.2	-	-
電気機械	14.6	3.2	0.5	-	-
一般機械	13.2	8.4	0.4	-	-
化学	11.3	8.7	1.0	-	-
鉱工業	100.0	2.7	0.7	-	-

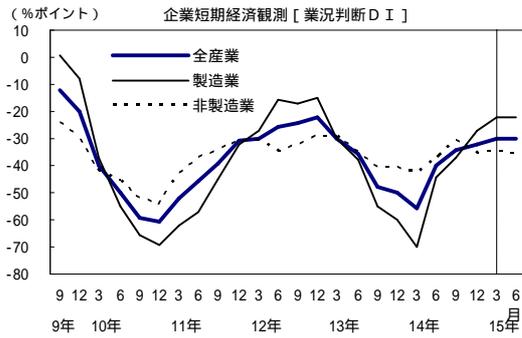
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。

2. 1~3月期は速報値。

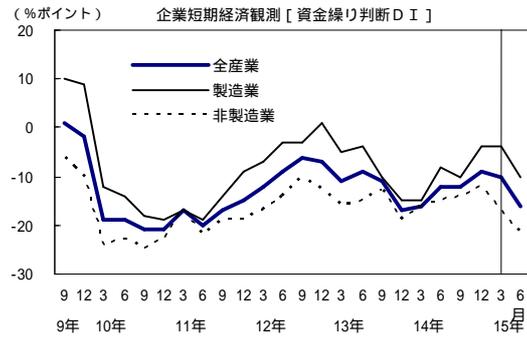
(備考) 1. 平成 15 年 3 月の北陸は速報値。

2. 北陸は平成 7 年基準 (左目盛)、全国は平成 12 年基準 (右目盛)。

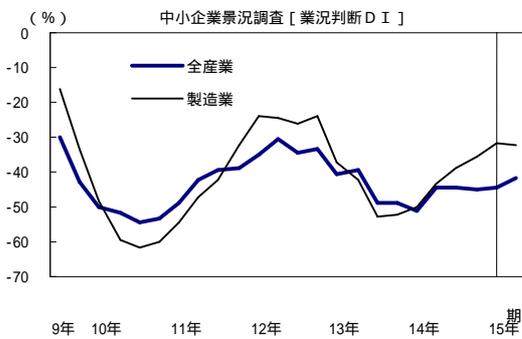
(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が縮小し、資金繰り判断は「苦しい」超幅が横ばいとなっている。
 企業短期経済観測調査 [業況判断D I、資金繰り判断D I] 及び中小企業景況調査 [業況判断D I]



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。15年6月は予測。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。15年6月は予測。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。15年 期は見通し。
 中部地区のD I。

景気ウォッチャー調査 (4月調査) [企業動向関連 (現状判断)]

「荷量は多少出てきたが、価格が依然下げ止まらず、商売をしても利益が上がる状況ではない(輸送業)」
 など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

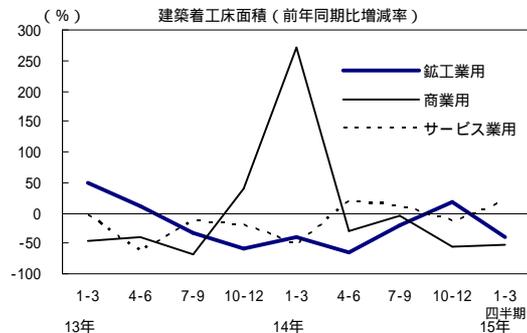
(3) 設備投資の14年度実績見込みは13年度実績を下回っている。

企業短期経済観測調査 [設備投資 (3月調査)]

(前年度比増減率、単位：%)

	14年度実績見込み	15年度見画
全産業	8.8 (1.3)	5.7
製造業	12.6 (1.8)	18.0
非製造業	1.3 (0.2)	16.1

(備考) ()は前回(12月)調査比修正率。



2. 需要の動向

(1) 個人消費はおおむね横ばいとなっている。

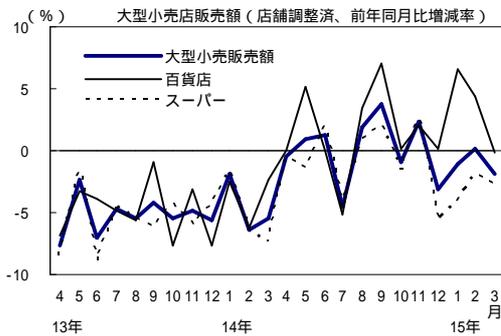
大型小売店販売額及び乗用車新規登録・届出台数

百貨店は、1月は婦人・子供服の高級衣料の一部に動きがみられた衣料品が前年を上回り、飲食料品も好調であったこと等から、全体でも前年を上回った。2月は飲食料品が振るわなかったものの、冬物を中心に衣料品が好調で、一部店舗でのリニューアル効果も続いていること等から、全体でも引き続き前年を上回った。3月は気温が低めに推移して春物衣料が振るわなかったこと等から衣料品が前年を下回り、全体でも8か月ぶりに前年を下回った。

スーパーは、期間を通じて飲食料品が比較的堅調に推移したものの、婦人服を中心に衣料品が振るわず、全体では4か月連続で前年を下回って推移している。

景気ウォッチャー調査(4月調査)[家計動向関連D I (現状判断)]

「新築住宅だけでなく、リフォームについても受注量が前年を下回った。一時的なブームのように多数の業者がリフォーム業に参入し、過当競争になりつつある(住宅販売会社)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

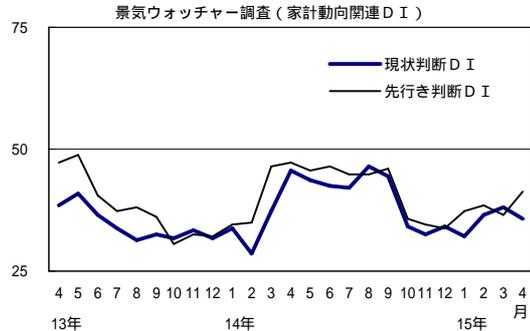
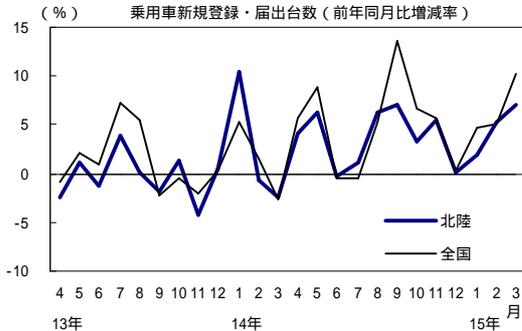


(前年同期比増減率、単位：%)

	14年4-6月	7-9月	10-12月	15年1-3月
大型小売店	0.6	0.1	0.8	1.1
百貨店	1.7	0.7	0.7	3.3
スーパー	0.0	0.6	1.8	3.2
乗用車	3.1	4.6	3.0	5.7
景気ウォッチャー	44.0	44.4	33.7	35.5

(備考) 1. 大型小売店販売額は店舗調整済。

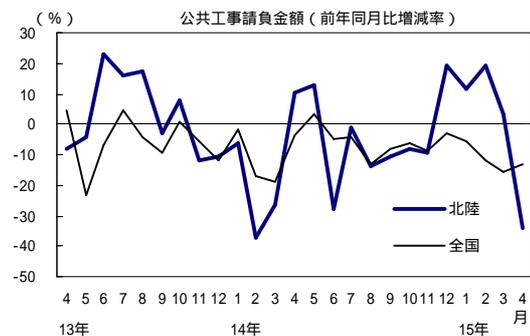
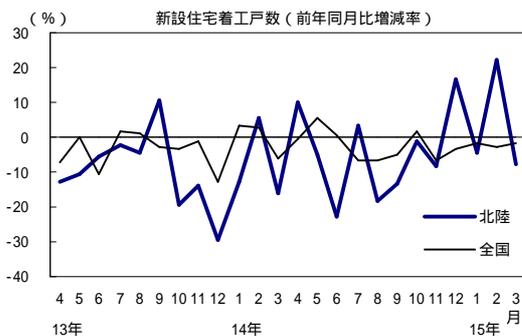
2. 景気ウォッチャー調査の数値は家計動向関連の現状判断D Iの3か月単純平均。



(2) 住宅建設はおおむね横ばいとなっている。

持家が前年を下回ったものの、貸家を中心に前年を上回ったことから、全体ではおおむね横ばいとなっている。

(3) 公共投資は14年度累計で見ると13年度を下回っている。

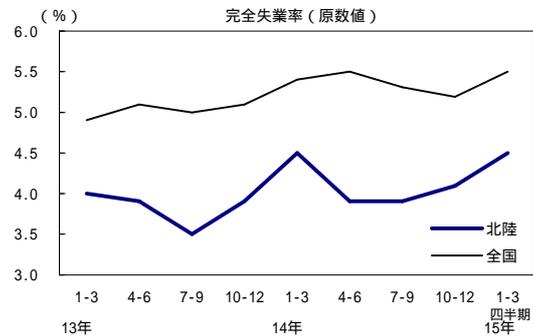
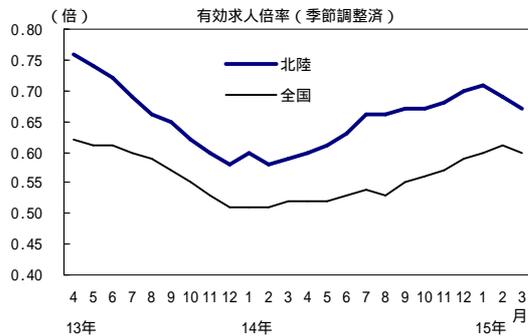


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は持ち直しの動きが緩やかになっており、依然として厳しい。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率はこのところ低下している。完全失業率は前年同期と同水準にある。



景気ウォッチャー調査(4月調査)[雇用関連(現状判断)]

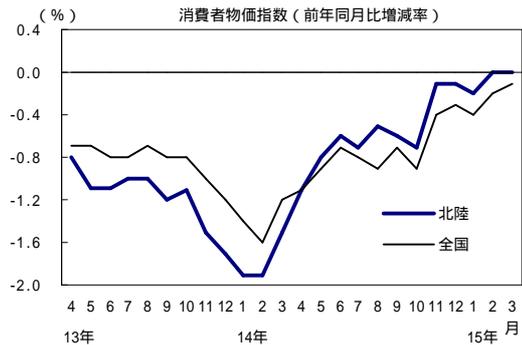
「求人の受注件数の絶対量が伸びていない。また細かい条件をつけて求人する先が多いため、人材の手配に苦慮している(人材派遣会社)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は件数、負債総額ともに減少している。

(3) 消費者物価指数は下落幅が縮小している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	14年4-6月	7-9月	10-12月	15年1-3月	15年4月
倒産件数	116	148	114	116	33
(前年比)	3.6	24.4	0.9	8.7	42.1
負債総額	328	649	317	350	42
(前年比)	20.7	117.9	77.9	23.6	80.1



景気ウォッチャー調査(4月調査)[合計DI(特徴的な判断理由)]

<現状>

・法人向けのIT案件は3か月前に比べてどんどん動いている。ただし取引先は徹底的なコスト削減に取り組んでいるため、価格は非常に厳しい(通信業)

<先行き>

・SARSなどの影響で国内旅行の需要が増加するといわれているが、その傾向はみられず、予約数は伸び悩んでいる(観光型旅館)

